

小 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	全体主題設定の理由	1
II	研究の方法	1
	1 実態調査	1
	2 授業実践研究	2
	3 学級目標を生かした指導の工夫	2
III	研究構想図	3
IV	学級活動内容（1）分科会	4
	1 主題設定の理由	4
	2 研究の視点における手だてとその実践例	5
	3 成果と課題	9
V	学級活動内容（2）分科会	10
	1 主題設定の理由	10
	2 研究の視点における手だてとその実践例	11
	3 成果と課題	15
VI	全体の成果と課題	16
	1 研究の成果	16
	2 研究の課題	16

研究主題

集団活動に主体的に関わる児童の育成 ～学級目標を生かした話し合い活動の指導の工夫～

I 全体主題設定の理由

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、特別活動は平成21年度から先行実施されている。特別活動の改訂の基本方針としては、児童の「よりよい人間関係を築く力」「社会に参画する態度」「自治的能力」の育成が特に重視されたことが大きな特徴と言える。また、学校行事などの体験を通して感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりすることを通して、言語活動を充実させることも重視されるようになった。

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、その背景には、生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合って解決する力の不足や好ましい人間関係を築けないことなど、現代の児童の社会性の欠如とも言える実態が指摘されている。このような実態の改善に向けては、学校教育全体を通じて行っていくことが前提ではあるが、望ましい集団活動を通して児童の人間形成を図る特質をもつ特別活動は、特に大きな役割を担っていると言える。

そこで、本研究では、児童のよりよい人間関係を築く力を高め、社会性を育てていくために、特別活動の中心とも言える学級活動（話し合い活動）を取り上げることにした。話し合い活動の指導を通して、児童が自分の学級、学校への所属意識を高め、集団活動に主体的に関わることができるようにしたい。このような態度の育成が、児童の豊かな社会性の向上につながるのではないかと考え、上記の研究主題を設定した。

II 研究の方法

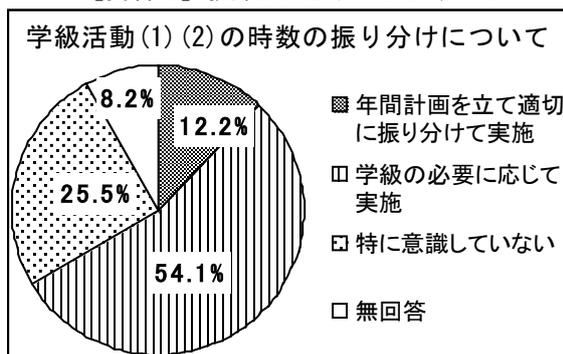
1 実態調査

研究の視点と手だてを設定するに当たり、児童及び学級担任の学級活動に関する実態調査をアンケート形式で行った。調査対象は研究員所属校の児童及び教師で、実数的には十分な数とは言えないが、研究を進める上で一定の傾向を明らかにすることができた。

学級活動の指導の充実に向けては、学級活動内容「(1)学級や学校の生活づくり」（以下、学級活動(1)と略記）、学級活動内容「(2)日常の生活や学習への適応及び健康安全」（以下、学級活動(2)と略記）についての違いを教師がしっかりと理解し、両者を効果的に関連させ指導する必要がある。特に学習指導要領に「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」が目標に加えられたことを踏ま

えると、この両方の役割をしっかりと機能させることは、とても大切であると言える。しかし、実態調査の結果（資料1、2）から、実際には、学級活動(1)と学級活動(2)の指導に適切な時数を振り分けることや、集団決定と自己決定というそれぞれの特質の違い等の理解があまりなされていない実態が見られた。また、円滑な学級会の進め方や集団決定の仕方の指導が難しいと

【資料1】教師のアンケートよりー1



【資料2】教師のアンケートより-2

学級活動では何を意識して指導していますか	学級活動(1)学級活動(2)	
	学級活動(1)	学級活動(2)
児童主体の活動	74.5%	
教師主体の活動		61.2%
集団決定	66.3%	21.4%
自己決定	19.4%	34.7%
学級目標の意識付け	40.8%	25.5%
年間指導計画	8.2%	14.3%

2 授業実践研究

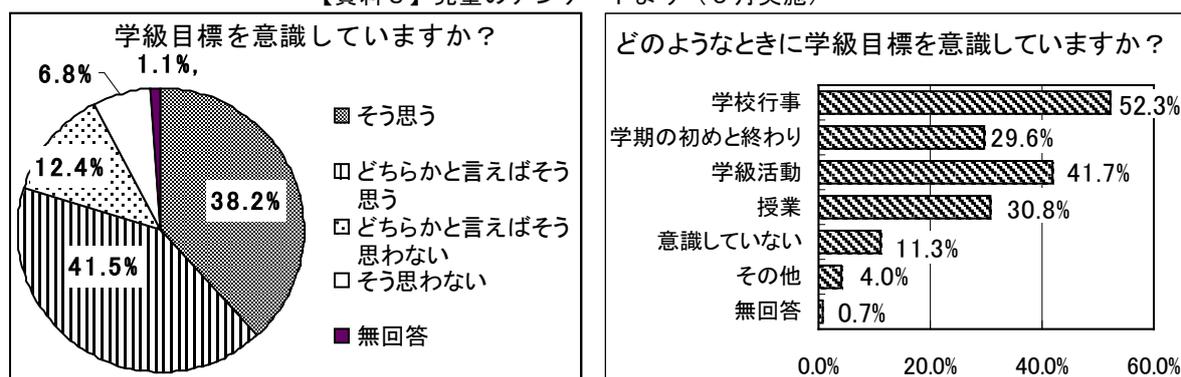
本研究の目的は授業改善である。そこで、学級活動(1)と学級活動(2)との特質の違いを踏まえた授業実践を研究の中心とした。

全体の研究主題にある「集団活動に主体的に関わる児童」とは、よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど、学級はもちろん学校生活全体の充実と向上を目指し、見通しをもって進んで活動できる児童と考えた。本研究では、学級活動(1)と学級活動(2)の授業実践を通して、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的、実践的な態度を育成し、研究主題の達成を目指した。

3 学級目標を生かした指導の工夫

新学年のスタートに当たって教師と児童が共に立てた学級目標。この学級目標は、学級集団が目指す姿であり、教師と児童の願いの込められた大切なものであると捉えている。しかし、教師の学級経営目標がそのまま学級目標になっていたりと、学期中に活用されず形が退化していきたりする実態もないとは言えない。児童に学級目標に関するアンケートを実施してみたところ、以下のような結果が得られた。(資料3)

【資料3】児童のアンケートより(9月実施)



約80%の児童が「学級目標を意識している」と回答している。しかし、どのような場面で学級目標を意識しているのかという回答では、各活動において学級目標を生かして取り組んでいるとは言えない結果が見えてきた。このことから、児童は、学級目標をわかってはいるものの、それが学校生活の中であまり生かされていないということがわかる。

本部会ではこのことに注目し、学校行事の事前指導や学級会などにおいて学級目標を改めて意識させ、学級目標を生かした指導の工夫について両分科会で研究を進めたいと考えた。

Ⅲ 研究構想図

<p>特別活動における今日的課題（H20.1 中教審答申） <基本的な課題> ・子供の学校生活の満足度や楽しさと子供の資質能力の育成に十分つながっていない。</p> <p><子供の課題> ・生活体験の不足や人間関係の希薄化 ・集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ て解決する力の不足 ・規範意識の低下 ・好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集 団活動を通じた社会性の育成が不十分な状況</p>	<p>児童の実態 ・学級活動は好きだが、話し合い活動に苦手意識を もつ児童が少なくない。 ・活動に見通しをもてない。 ・決められた枠の中では積極的に活動できるが、 自分たち自身で活動を工夫する力が弱い。</p> <p>学級活動の指導上の課題 ・話し合い活動を活発にさせる工夫が難しい。 ・集団決定の仕方の指導が難しい。 ・学級活動内容(1)・(2)の指導について、それぞ れの特質の違いが理解されてなく、計画的に行 われていない傾向がある。</p>
---	--

<p>東京都教育研究員小学校特別活動部の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動内容(1)(2)のそれぞれの特質の違い、効果的な指導や両者の関連について授業を通して研究していく。 ・学級目標を生かした学級活動の指導の工夫について研究し、その効果について検証していく。

研究主題
集団活動に主体的に関わる児童の育成
～学級目標を生かした話し合い活動の指導の工夫～

学級活動(1)分科会 研究主題
 互いに尊重し合い、集団決定ができる
 児童を育成する指導の工夫

○目指す児童像
 ・互いの意見を生かしたり、よさを認め合ったり
 する子
 ・集団を意識し、見通しをもって話し合う子

○研究仮説
 自分の意見を持ち、友達の意見と比べたり、よ
 さを認め合ったりできるような指導の工夫を行う
 ことによって、互いに尊重し合い、集団決定がで
 ける児童が育つであろう。

○方法
 ・話し合い活動を通じた授業実践による検証
 (事前指導や常時活動における指導も含む)

○研究の視点

- 1 自分の意見を持ち、伝える工夫
- 2 友達の意見を受け止める工夫
- 3 比べ合ったり、折り合ったりして、よりよい
 ものをつくり上げる工夫
- 4 友達のよいところを見つけ、共感する工夫

【手だて】
 ・学級目標の効果的な活用
 ・学級会カードの工夫
 ・終末の助言の充実
 ・話し合いの柱立ての工夫

学級活動(2)分科会 研究主題
 望ましい集団活動を意識した自己決定が
 できる児童を育成する指導の工夫

○目指す児童像
 ・話し合い活動を通して自分の考えをもてる子
 ・自分の考えをもとに実践しようとする子

○研究仮説
 活動への意欲や期待感を高める工夫をし、学級
 目標や行事の目標を意識した話し合いを取り入れ
 ることによって、望ましい集団活動を意識した自己
 決定ができる児童が育つであろう。

○方法
 ・学校行事を題材にした授業実践による検証

○研究の視点

- 1 活動への意欲や期待感を高める工夫
 - ・ビデオ、写真など資料の工夫
 - ・アンケート、インタビューの活用
 - ・他学年との交流
- 2 集団を意識するための話し合い活動の工夫
 - ・学級目標を意識させる工夫
 - ・スローガンや合言葉を意識させる工夫
- 3 自己決定を促すための工夫
 - ・ワークシートの工夫
 - ・個→グループ→全体と段階を踏んだ話し合
 いの工夫
- 4 満足感・達成感を共有させる工夫
 - ・振り返りの場の工夫
 - ・ポートフォリオの活用

IV 学級活動内容（1）分科会

互いに尊重し合い、集団決定ができる児童を育成する指導の工夫

1 主題設定の理由

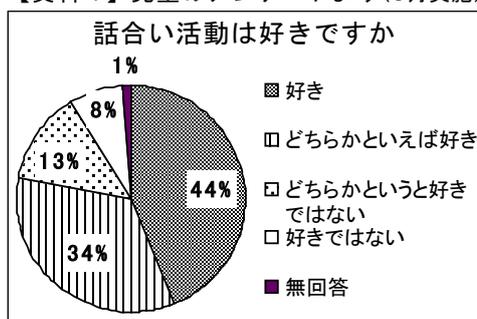
本部会で実施した児童の実態調査によると、学級活動における話し合い活動を肯定的に捉えている児童は78%であった。（資料4）好きな理由として、「友達の意見が聞ける。」「みんなで話し合うのが楽しい。」など他者との関わりに関することをあげている児童が多い。

一方で、否定的な回答をしている児童の理由を見てみると、話し合いがうまくまとまらなかったり、話し合いの最中に学級の雰囲気が悪くなったりした経験があげられた。また、自分の意見を考えたり、発表したりすることに苦手意識をもっている児童が少なくないことがわかった。さらに、同時に行った教師の実態調査では、学級会の進行や集団決定の指導に苦勞している実態も浮かび上がってきた。

このような実態を受け、本分科会では、話し合い活動におけるよりよい集団決定に焦点をあてて、研究を進めていくことにした。学級目標や提案理由を根拠とした集団決定を行い、決まったことを実践していく経験を積み重ねていくことで、所属意識が高まり、全体研究主題である「集団活動に主体的に関わる児童の育成」に迫ることができると考えた。

以上のことから、本分科会では、目指す児童像、研究仮説、研究の視点を、次のように設定した。

【資料4】児童のアンケートより(9月実施)



【目指す児童像】

- ・互いの意見を生かしたり、よさを認め合ったりする子
- ・集団を意識し、見通しをもって話し合う子

【研究仮説】

自分の意見を持ち、友達の意見と比べたり、よさを認め合ったりできるような指導の工夫を行うことによって、互いに尊重し合い、集団決定ができる児童が育つであろう。

【研究の視点】

視点1：自分の意見を持ち、伝える工夫

活発な話し合いが行われるためには、一人一人が自分の意見をもつことが前提となる。事前に、学級目標を基に練り上げた提案理由を提示し、自分の考えの根拠とさせたい。また、「私は…」を主語にして自分の意見を伝えられるようにしたい。

視点2：友達の意見を受け止める工夫

よりよい集団決定を行うためには、自分の意見を伝えるだけでなく、友達の意見を受け止める意識が大切になってくる。自分の意見と友達の意見との考えの違いに気づき、よさを認め合いながら、話し合いを進めていく態度を育成したい。

視点3：比べ合ったり、折り合ったりして、よりよいものをつくり上げる工夫

出された意見をまとめ、集団決定していくに当たって、出し合い→比べ合い→折り合い→決定といった一連の流れを大切にしたい。

視点4：友達のよいところを見つけ、共感する工夫

児童相互で、認め合い、共感する活動を重ねることで、学級に対する所属意識を高め、集団で活動することへの意欲を向上させていきたい。

2 研究の視点における手だてとその実践例

視点1 自分の意見を持ち、伝える工夫

学級会カードの活用

【指導の工夫】

- 事前に議題・提案理由・柱立て等を知らせ、自分の考えをカードに記入させる。
- 学級目標を基にした提案理由を意識させ、自分の考えの根拠をもたせる。

【期待される児童の姿】

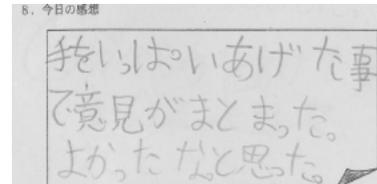
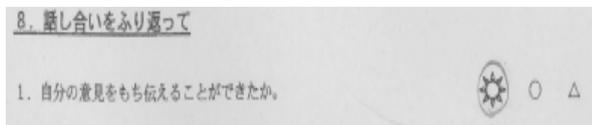
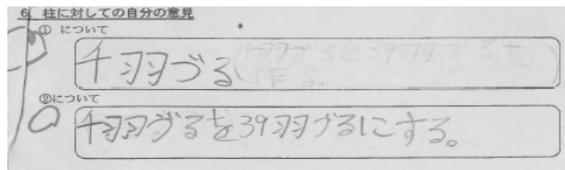
- 意見を伝えるのが苦手な児童も自分の書いたカードを見て発表することができ、より主体的に話し合い活動に参画することができる。
- 自分の意見の根拠に学級目標を基にした提案理由があることで、自信をもって発表することができる。

【実践事例1】

- ★事前に意見をもつ。



- ☆自信をもって伝えられた。



【実践事例2】

- ★自分の考えの根拠になる学級目標とそれを基にした提案理由を示す。



- ☆自分の考えとその理由をしっかりと考えることができ、自信をもって発表できた。

第9回 レインボ-学級会ノート		12月 9日(木)
【学級目ひょう】・はずかしがらずに自分の考えを言えるクラス ・人がいやなことはせず、みんながよろこぶことをするクラス ・さい後まであきらめずにどりよくするクラス		
議題	2学期さい後の学級会(クリスマス会)の計画をたてる。	
ていあん理由	クリスマス会はみんながよろこぶことのできることをクラスで話し合おう。今年12月か、来年1月か、どちらのクリスマス会をやるか話し合おう。	
話し合うこと①	自分の考え①(理由)	
どんなことをやるか。	ア-スポーツ理由みんなのきょうりょくをして人のきもちを考えることが出来るからです。 B-ア-スポーツ理由いろんな人と手をつなぐとよりよくなるからです。	

終末の助言

【指導の工夫】

- 事前に自分の意見を準備してそれを学級の仲間に伝えようとしたり、提案理由を基に自分の意見を発表したりした児童について、具体的に賞賛する。

【期待される児童の姿】

- 自分に自信をもつことができ、賞賛された児童だけでなく他の児童も安心して自分の意見を伝えようとする土壌ができる。

【実践事例】

- ★「1回は発言したい」と自分のめあてに決め、発言した児童に対して…
→「めあてを意識し、みんなに自分の意見を伝えようと頑張っていましたね。」
- ★「私の意見は～です。その理由は～だからです。」と理由を言った児童に対して…
→「提案理由にもどって考えた意見だったので、多くの友達が納得できましたね。」

- ⇒ ☆自分のめあてや提案理由を意識しながら自分の意見を伝える児童が増えてきた。

視点2 友達の意見を受け止める工夫

学級目標の活用

【指導の工夫】

↓ ○学級目標を意識させながら話し合いを行う。

【期待される児童の姿】

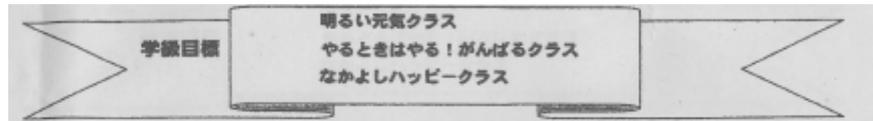
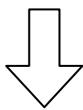
○温かい雰囲気の間人関係が構築されていき、信頼関係が生まれてくる。

- ・自分ばかりでなく友達の意見を大切にしようとするようになる。
- ・自分の意見との相違に気がつくこともできるようになる。

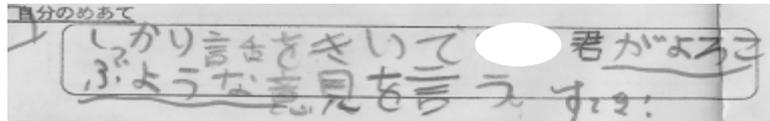
○友達の意見を受け止めながら話し合いをする態度が身に付いてくる。

【実践事例】

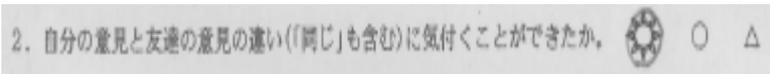
★常に学級目標を意識し、話し合いができるようワークシートにも明記する。



☆友達の話をしっかり聞こうと自分のめあてに設定することもできるようになった。



☆話し合い後の振り返りでも、友達の意見との相違に気がついていることがわかった。



終末の助言

【指導の工夫】

↓ ○友達の意見と自分の意見の相違に気づき、友達の考えを認めたり、受け入れたりする発言をした児童を、教師からの終末の助言の際に具体的に賞賛する。

【期待される児童の姿】

○「自分の考えを伝えるばかりの話し合い」から、「折り合いながら集団決定していく話し合い」に変わっていく。

【実践事例】

★「△△さんの意見のここがよかった」という発言をした児童に対して…

→「自分の考えばかりではなく、友達の意見のよいところを見つけ、発表することができましたね。」

★「△△さんの意見を聞いて意見が変わりました」という発言をした児童に対して…

→「友達の意見を聞いた後に自分の意見を変えたのは、友達の意見をよく聞き、そのよさに気づいたからです。」



☆友達の意見をよく聞いて自分の意見を言える児童が増えてきた。

視点3 比べ合ったり、折り合ったりして、よりよいものをつくり上げる工夫

学級目標の活用

【指導の工夫】

- 学級目標を根拠にした提案理由を計画委員会で練り上げる。
- 話し合いでも集団決定でも、学級目標を意識させる。

【期待される児童の姿】

- 考え方の根拠が明確になり、学級のために自ら意見を言おうと努めたり、仲間の意見を大切に聞こうとしたりするようになる（比べ合い）。
- より学級や学校のことを考えてよりよい集団決定ができる（折り合い）。

【実践事例1】

<学級目標>

夢に向かってGo!Go!
 ○○小の手本になろう
 努力して自信をつけよう
 最高の思い出をつくろう

<議題>

「1年2組と遊ぶ会の計画を立てよう。」

<提案理由>

1年生の手本として行動するよい機会になるし、1年生に楽しんでもらってもっと仲良くなりたいから。

☆自分の好き・嫌いではなく、学級目標やそれに基づいた提案理由を根拠に比べ合い、折り合う姿が見られるようになった。

柱立ての工夫

【指導の工夫】

- 計画委員会で、話し合いの柱を2～3本立てる。(①「具体的な内容の決定」②「内容を深めるための工夫」など)
- 話し合いでは「内容を深めるための工夫」に重点をおく。

【期待される児童の姿】

- 提案理由の達成に向けた多様な意見が考えられるので、話し合いがより活発になる。
- 出し合った意見を比べ合ったり、折り合ったりする機会を多くもつことができる。

板書例

月 日 曜日 日直
 第○回学級会
 議題「お楽しみ集会の内容を考えよう」

柱1 内容を決めよう

柱2 提案理由を達成するための工夫を考えよう

柱3 役割を考えよう

終末の助言

【指導の工夫】

- 友達の見解に賛成や反対の意見を出したり改善点を伝えたり、集団決定に向けて建設的な意見を出したりした児童を、教師からの終末の助言の際に、具体的に賞賛する。

【期待される児童の姿】

- 児童がよりよい話し合いや集団決定について理解し、それ以降の実践に活かしていくことができる。

【実践事例】

★友達の見解のよさに気付き、自分の意見に折り合いをつける発言をした児童に対して…
 →「自分の意見を変えることは、とても勇気のいることだけど、友達の見解の方がより提案理由や学級目標に近づくことができると考えた○○さんの発言は、すばらしいです。」

☆集団決定を意識した意見を言える児童が増えてきた。

視点4 友達のよいところを見つけ、共感する工夫

【指導の工夫】

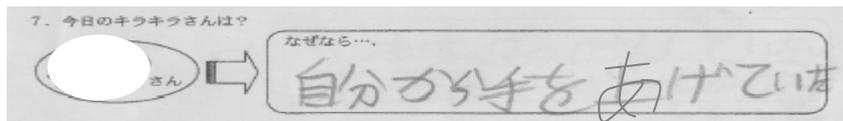
↓ ○話合いの振り返りの中で、学級会カードに友達のよいところを見つけて書き、それを発表して思いを共有する。

【期待される児童の姿】

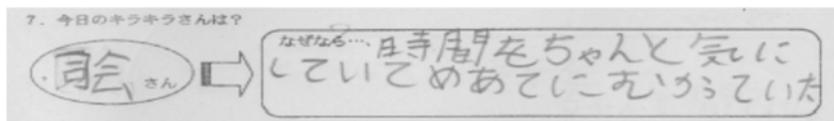
○相手のことを思いやるような発言ができたり、互いの立場や状況を考えながら活動を進めていくことができたりするようになる。

【実践事例】

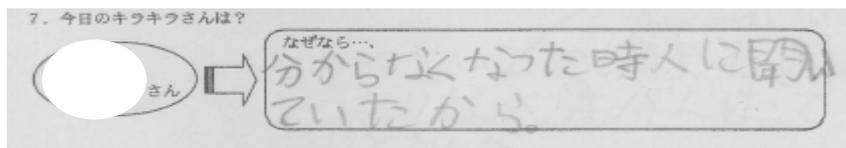
① 普段なかなか自分の意見が言えない友達の頑張りに気づいた例



② 司会の活動のよさに具体的に賞賛した例



③ 友達の意見を理解しようと努めていたことに気づいた例



☆ お互いのよさを認め合い、賞賛し合う様子が多く見られるようになった。

☆ 友達から賞賛された児童は、その後の活動や次の話合いでも主体的に取り組む様子が見られるようになった。

学級会カードの活用

【指導の工夫】

↓ ○友達が努力していたことや工夫していたことに気づき、そのよさを積極的に伝えたり共感したりする意見を述べた児童を、教師からの終末の助言の際に、具体的に賞賛する。

【期待される児童の姿】

○児童がお互いに認め合うような様子が見られるようになる。

【実践事例】

★ 友達が、頑張って発言したことに気づいた児童に対して…

→ 「〇〇さんは、△△さんの勇気によく気がつきましたね。友達の頑張っている姿を見ると、嬉しい気持ちになりますよね。みんなもたくさん見つけられるといいですね。」

★ 司会グループの進行の工夫やこれまでの努力に気づいた児童に対して…

→ 「司会グループが、何日も前から計画を立てて、みんなの意見をいかにまとめるかを考えながら進めてくれたからこそ、納得のいく決定ができたことに、気がつきましたね。」

⇒ ☆ 友達のよさを認め、伝えようとする児童が増えてきた。

終末の助言

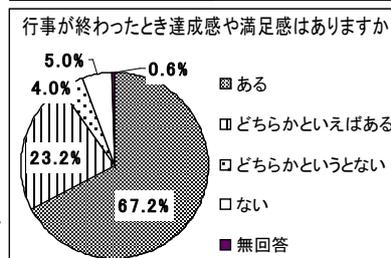
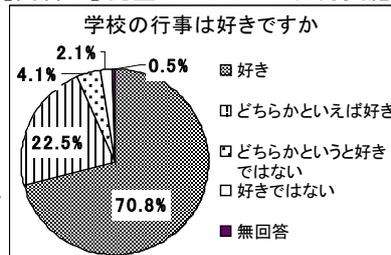
望ましい集団活動を意識した自己決定ができる児童を育成する指導の工夫

1 主題設定の理由

学級活動(2)は、話し合い活動を通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践する児童の自主的、実践的な活動を特質としている。本分科会では、学級活動(2)の指導を通して全体研究主題に迫るには、自己決定した目標が学級集団として共通の方向性をもっていること、実践する活動が集団に寄与する活動であることが必要だと考え、上記の研究主題を設定した。

学級活動(2)は内容の範囲が広く、多岐に渡っている。本【資料5】児童のアンケート(9月実施)

研究では分科会主題から、学級活動(2)の内容「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」及び「ウ 望ましい人間関係の形成」を取り上げることとした。さらに、取り扱う題材については前述のとおり、共通の方向性をもたせやすいこと、自己決定した行動がよりよい集団活動につながることから、児童にとって身近であり活動の成果がわかりやすい「学校行事への取組み」を題材とした。本部会で実施した実態調査では、約93%に児童が学校行事を好きだと答えている。その理由として個人的なものだけでなく、「みんなで協力できる」など人との関わりについて挙げている児童が多かった。また、ほぼ同様の割合で学校行事の取組みに達成感や満足感を



感じていることもわかった。(資料5) その理由も「友達と喜び合える」「協力してやり遂げた」など人との関わりに関するものが多かった。これは、学校行事が望ましい人間関係を形成することを目的とし、その目的が達成できていることが理由として考えられる。

児童にとって活動への関心・意欲の高い学校行事の取組みを題材に取り上げるとともに、よりよい集団活動を目指して設定した学級目標を生かした話し合い活動の過程に重点を置き、

【目指す児童像】

- ・話し合い活動を通して自分の考えをもてる子
- ・自分の考えをもとに実践しようとする子

共通した目標を意識しながら自己決定ができるような手だてについて、研究を進めることとした。

【研究仮説】

活動への意欲や期待感を高める工夫をし、学級目標や行事の目標を意識した話し合いを取り入れることによって、望ましい集団活動を意識した自己決定ができる児童が育つであろう。

【研究の視点】

視点1：活動への意欲や期待感を高める工夫

題材の導入において、適切な資料や情報を提供することで児童の興味・関心が強くなり活動への意欲や期待感が高まっていくと考えた。

視点2：集団を意識するための話し合い活動の工夫

望ましい集団活動を行わせるために、学級目標や活動のスローガンなどを意識させた話し合いを行う。共通のめあてをもって取り組むことが大切であると考えた。

視点3：自己決定を促すための工夫

個→グループ→全体と段階を踏んだ話し合いをすることで、集団での話し合いを生かし、個人目標の自己決定ができるようになると考えた。

視点4：満足感・達成感を共有させる工夫

活動が終わった後に報告会を行ったり、活動の流れが分かるような一冊のポートフォリオにまとめたりすることで満足感や達成感を共有できると考えた。

2 研究の視点における手だてとその実践例

視点1 活動への意欲や期待感を高める工夫

ビデオ・写真など資料の工夫 アンケート・インタビューの活用 他学年との交流

題材の導入において、ビデオや写真を使ったり、他学年からのアンケートやインタビューを活用することにより、活動への意欲や期待感を高めたり、具体的な課題やめあてをつかめるようにした。

【事例1】ビデオ・写真など資料の工夫① 6年題材名 最高学年のあゆみを作ろう！



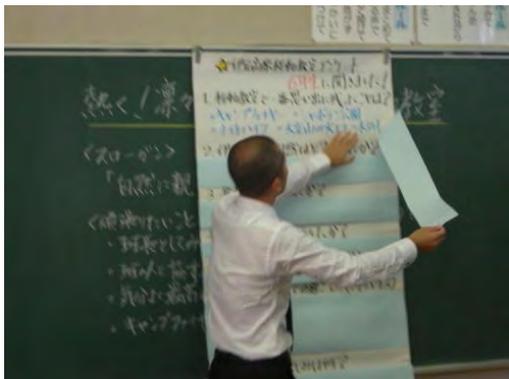
「最高学年」として自分たちが頑張ってきたことを振り返ることにより、本題材への意欲を高まった。

【事例2】ビデオ・写真など資料の工夫② 4年題材名 みんなキラキラ輝け 学芸会！



一昨年度の自分たちが演じた学芸会の映像を見ることによって、成長した自分たちを見てもらおうという意欲や期待感をもてた。

【事例3】アンケート・インタビューの活用 5年題材名 熱く！凛々しく！伊豆高原移動教室



6年生に前もってインタビューをしており、本時の導入で活用したことによって、児童が具体的なめあてを考えることができた。

【事例4】他学年との交流 5年題材名 就学时健康診断に向けて



6年生に昨年度の経験から気づいたことやアドバイスを話してもらうことにより、具体的な課題をつかむことができた。

視点2 集団を意識するための話し合い活動の工夫

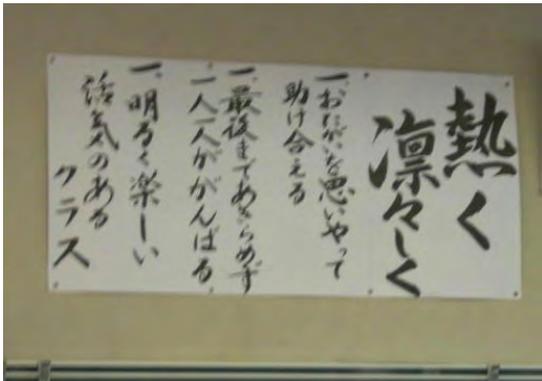
学級目標を意識させる工夫

スローガンや合い言葉を意識させる工夫

学校行事においても学級目標を意識させることによって、集団を高めるための自分のめあてをもつことができるようにした。また、学校行事や活動におけるスローガンや合い言葉を意識させた話し合いを行うことにより、共通のめあてをもった主体的な取り組みができるようにした。

【事例1】学級目標を意識させる工夫①

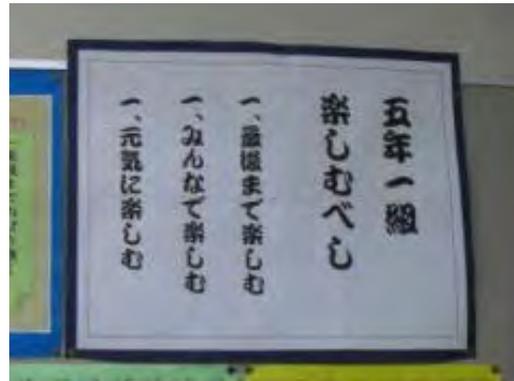
5年題材名 熱く！凛々しく！伊豆高原移動教室



学級目標を意識させて活動に取り組みることにより、集団を意識した自分のめあてを考えることができた。

【事例2】学級目標を意識させる工夫②

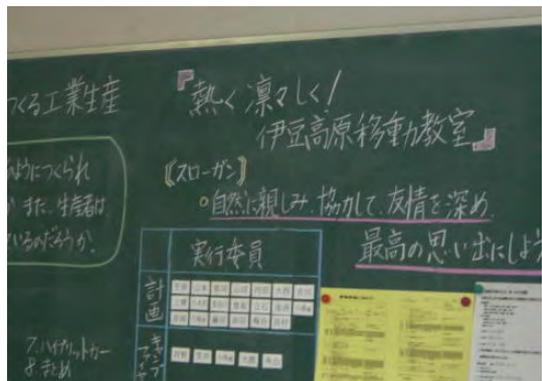
5年題材名 音楽会を楽しむべし！



学級目標の言葉を題材名に用いることにより、より学級目標を意識しながら活動に取り組むことができた。

【事例3】スローガンや合い言葉を意識させる工夫①

5年題材名 熱く！凛々しく！伊豆高原移動教室



決まったスローガンを常に意識できるように掲示しておくことにより、学級全体が共通の目標をもって主体的に活動に取り組むことができた。

【事例4】スローガンや合い言葉を意識させる工夫②

6年題材名 最高学年のあゆみを作ろう！



5年生終わりに話し合った「6年生」のイメージを合い言葉にしたものを活用することによって、6年生になった自分たちを具体的に振り返ることができた。

視点3 自己決定を促すための工夫

ワークシートの工夫

段階を踏んだ話し合いの工夫

学校行事や学級、学年活動の自分のめあてを考える集団での話し合いにおいて、学級目標やスローガンを意識できるようなワークシートを活用することにより、具体的なめあてを考えられるようにした。また、個→グループ→全体と段階を踏んだ話し合い活動を取り入れることによって集団での話し合いを生かし、集団を意識した自分のめあてをもつことができるようにした。

【事例1】ワークシートの工夫①

6年題材名 最高学年のあゆみを作ろう！



年表形式のワークシートを個人用と学級掲示用の二つ作ることによって、個人だけでなく学級集団としての振り返りも行うことができた。

【事例2】ワークシートの工夫②

5年題材名 音楽会を楽しむべし！

音楽会を楽しむべし！	
5年1組 名前	
学級目標	☆ 5年1組 楽しむべし ☆ 最後まで楽しむ！ みんなで楽しむ！ 元気に楽しむ！
音楽会スローガン	〇かがやけ！ ひびけ！ 心にとどけ！ 世界一の音楽会！
1. 音楽会で、合唱や合奏を通してなにを伝えたいのか考えてみよう。	

学級目標、スローガンから自分のめあてを具体的に考え記入できるワークシートを活用することによって、「みんなのために自分ができること」を考えることができた。

【事例3】段階を踏んだ話し合いの工夫①

5年題材名 熱く！凛々しく！伊豆高原移動教室



学級全体で学級目標や移動教室のスローガンを確認し、グループで必要なことを話し合い、それらを生かして、最終的に自分のめあてを具体的に考えることができた。

【事例4】段階を踏んだ話し合いの工夫②

4年題材名 みんなキラキラ 学芸会！



学芸会で見せたい姿をグループで話し合うことにより、話し合ったことを全体に広め、自分のめあてをもてた。

視点4 満足感・達成感を共有させる工夫

振り返りの場の工夫

ポートフォリオの活用

保護者への招待状や報告会の企画の活動を行ったり、振り返りをするときに実際に演じてみたり、作文や振り返りのコメントを紹介し合ったりすることによって満足感を共有することができるようにした。また、活動の流れ全てを一冊のポートフォリオにまとめ、作品が残ることによって、より活動の達成感を味わえるようにした。

【事例1】振り返りの場の工夫①

6年題材名 最高学年のあゆみを作ろう！



行事の振り返りを行う際、実際に演じてみたり、児童の作文や振り返りカードのコメントを紹介したりすることによって、満足感を共有することができた。

【事例2】振り返りの場の工夫②

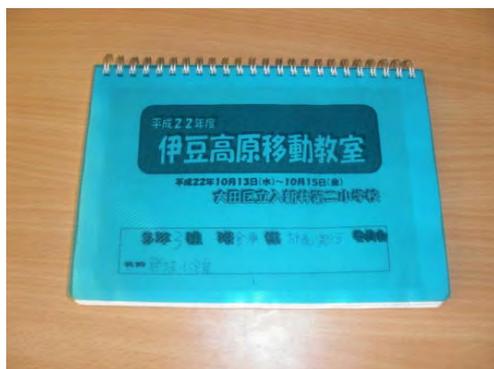
5年題材名 音楽会を楽しむべし！



ワークシートへの振り返りの記入だけでなく、掲示してあった音楽会へ向けてのめあてに満足度を星3つで表すことによって、活動の達成感を全体で共有することができた。

【事例3】ポートフォリオの活用①

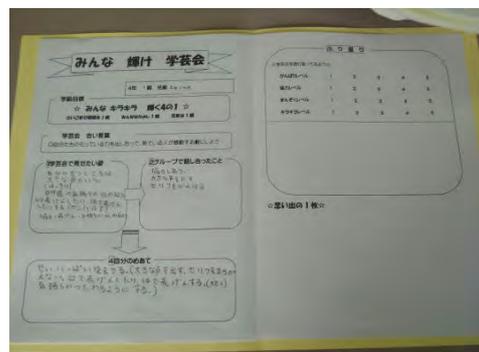
5年題材名 熱く！凛々しく！伊豆高原移動教室



日程表・グループ編成などしおりとして活用するだけでなく、事前の準備や振り返りまでを1冊にまとめたことにより、活動の達成感、満足感を高めることができた。

【事例4】ポートフォリオの活用②

4年題材名 みんなキラキラ 学芸会



脚本、役割分担、事前の準備から振り返りまでの活動の流れを確認しながら取り組むことができるポートフォリオを作成することにより、見通しをもって主体的に活動できた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・「望ましい集団活動」を意識させるために、学級目標や行事のスローガン等を教室に掲示するとともにワークシートなどにも意識付けのための工夫を取り入れた。その結果、一人一人の学級集団、学校集団への所属意識が高まり、集団の一員としての役割を考えながら行動する姿が見られるようになった。
- ・集団活動を意識した自己決定を促すために、学級目標を根拠に話し合うことを重視した。さらに、個人、少人数のグループ、学級全体と段階を踏んで話し合う活動を取り入れた。その結果、児童の思考が深まり、集団の一員としての自分の在り方を考えながら自己決定ができるようになった。
- ・言語活動の充実の視点から、活動について調べたことや準備したことを報告したり、事後に感想文にまとめたり、心に残ったことなどの発表会を行ったりしたことは、言語力の育成において効果的であった。

(2) 課題

- ・本研究で取り上げた題材は「学校行事への取組」の指導という限られた内容であった。学級活動(2)の多岐にわたる内容についても、学級活動(1)と関連させた指導の在り方について研究を進める必要があった。
- ・同じ形式のワークシートを繰り返し使うことで児童が先を見越して意見を書くようになり、思考が広がっていかないことがあった。
- ・学級目標が学級活動において大きな役割があるので、その内容や決め方について更に研究を進める必要性を感じた。
- ・発達段階や学級の実態に応じた話し合いの在り方や、自己決定の内容については更に研究を進める必要がある。

①学級目標、スローガンを意識できるようにする。

②個人の考えをもとに、グループ、クラスで話し合うことで、考えを深めることができた。

③具体的な目標を自己決定する。学級目標と関連させることで、集団を意識した自己決定ができた。

④音楽会が大成功した。

⑤「みんな心が一つになれば、何でもできることが分かった。」振り返りでは、集団への意識の高まりと自己の成長を感じることができた。

VI 全体の成果と課題

平成 21 年度から先行実施されている新学習指導要領において特別活動は、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事の四つの内容のねらいや意義を明確にするため、特別活動の全体の目標を受けて各内容の目標が示された。さらに、学級活動では、学級集団の育成上の課題や発達の課題に即した指導ができるようにするため、低・中・高学年ごとに「内容」が示され、いずれの学年においても取り扱う内容を「共通事項」として「(1)学級や学校の生活づくり」「(2)適応と成長及び健康安全」が示された。

学級活動(1)は、児童が自発的、自治的に自ら学級や学校の生活の向上に関する諸問題について話し合い、決まったことを実践していくことが主な活動である。また、学級活動(2)は、教師の意図的、計画的な指導で、児童が自己決定したことに基づいて一人一人が強い意志で努力し、よりよい自分へと成長しようとする活動である。学級活動ではこの二つの内容の特質を十分に踏まえ、相互の連携を図りながら指導していくことが重要である。

本部会では、全体主題に「集団活動に主体的に関わる児童の育成～学級目標を生かした話し合い活動の指導の工夫～」を設定し、学級活動(1)と学級活動(2)の二つの分科会を組織して研究を進めてきた。研究に当たっては、両分科会の研究内容の報告・検討に十分な時間をかけ、学級活動(1)と学級活動(2)が、学級活動を車に例えればその両輪を果たすという意識を大切に進めてきた。また、両分科会の共通理解として、学級経営の基盤となる「学級目標」を大切に、児童にとって「学級目標」が話し合いでの集団思考・集団決定・自己決定の拠り所となるよう、手だてを工夫してきた。あらためて、二つの活動を効果的に関連させながら指導していく大切さを痛感した。

1 研究の成果

- (1) 各学校の実態を把握するに当たって、アンケート調査を行ったことで、具体的な数値でみることができ、研究の方向性を整えることができた。
- (2) 学級活動(1)と学級活動(2)の両面から研究を進め、それぞれの指導性の違いについての理解を深め指導したことで、児童が集団活動に主体的に関わるようになった。
- (3) 学級目標を生かした話し合い活動を繰り返し経験したことで、児童が、望ましい態度で学校生活を送ろうとする意欲が高まった。

2 研究の課題

- (1) 研究員の担任する学年が中学年及び高学年であったため、両分科会とも低学年における指導の在り方や手だてについて深められず、課題が残った。
- (2) 話し合いの根拠として学級目標を活用する等、学級目標を重視した研究を進めてきたが、よりよい学級目標とは何か、その設定の仕方の工夫はどのようなものか、などについても研究を継続する必要がある。
- (3) 学級活動(1)と学級活動(2)の指導において、各学校の実態に合わせながら全体計画や年間指導計画を見直すとともに、評価の在り方についての研究を深め、学校全体としてよりよい指導ができるよう改善していく。

平成22年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 特 別 活 動

【学級活動(1)分科会】

地 区	学 校 名	職名	氏名
世田谷区	世田谷区立松沢小学校	主任教諭	◎佐生 秀之
北 区	北区立西浮間小学校	主任教諭	土井 美里
荒川区	荒川区立尾久第六小学校	教 諭	尾形 俊亮
青梅市	青梅市立第二小学校	主任教諭	○渡邊 裕子

【学級活動(2)分科会】

地 区	学 校 名	職名	氏名
大田区	大田区立入新井第二小学校	主任教諭	○田嶋 秀明
足立区	足立区立竹の塚小学校	主任教諭	松本 明子
小平市	小平市立小平第十二小学校	主任教諭	佐藤 千晴
多摩市	多摩市立連光寺小学校	主任教諭	高寄 浩三

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
統括指導主事 小島 みつる

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
小学校 特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕
平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451